

植村会長 TOKYO X は「食育」の理念と共通する

TOKYO X Association は十月八日、十二時より、東京・代々木公園のケヤキ並木通り特設ステージにおいて、東京都が主催した「第五回東京都食育フェア」に参加し、「食育の観点からアグリフードチェーンの紹介」を行った。

同紹介において、植村光一郎会長より、東京都産ブランド豚肉「TOKYO X」の部分肉を使用したスーパーマーケットで販売されている商品ができるまでの実演（デモンストレーション）と試食が行われた。実演はロース、バラ、肩ロース、ももなどによるとんかつ用、しょうが焼き用、厚切り用、薄切り用、しゃぶしゃぶ用、カルピ用、チャーシュー用、ソーシユ等について行われた。

実演中に TOKYO X の特別に厚切りにされたしゃぶしゃぶの試食が行われた。試食に当たっては、試食券が配布されたが、それが早々と使用された。また、試食券を持たない人の長い列ができたが、用意されたしゃぶしゃぶが足りなくなる状況であった。

植村会長は実演を終了するに当たり、TOKYO X は、アニマルウェルフェアの精神に沿った飼育が行われており、健康な豚の生産とそれによるおいしい豚肉の追求、国産品による食料自給率の向上等に注力していること。これらは食育の精神と共通するものがあること。また、給与している飼料は、指定飼料であるとともに、ふすまが5%、アルファルファミールが二・五%配合されており、繊維質が多いことが特徴であるとした。

食鳥協会関東支部「国産チキンまつり」盛大に開催

(注)日本食鳥協会関東支部は十月八日、午前九時より、東京・築地の築地外市場小田原橋駐車場内特設会場において、国産鶏肉の消費拡大の一環として、二〇一一年度「国産チキンまつり」を盛大に開催した。当日は晴天に恵まれ、気候も暑くもなく、寒くもなく、絶好の「お出かけ日和」ということもあってか、会場周辺は来場者で一杯であった。

国産チキンまつりでは、日本食鳥協会高橋照義関東支部長のあいさつの後、鶏レバー煮込みと国産手羽もとローストチキンの販売が行われた。販売は鶏レバーが一二〇キログラム、手羽もとが九〇キログラムそれぞれ用意され、レバーが一カップ一〇〇円、手羽もとが三本入り一〇〇円で行われた。売り場には長い列ができて買い求めた。買い求めたものをその場で食べた人、持ち帰った人と様々であった。

また、売り場にはリーフレット「一万キ口を飛び続ける渡り鳥驚異のパワー」が配布され、その秘密は、とり肉には抗疲労成分「イミダペプチド」がたっぷり含まれていることにあるとされていた。